

### 第3学年4組 英語科学習指導案

指導者 教諭 末継 早紀  
ALT Ericka Selenski

#### 教科等コアスクール・英語リーディングスクール研究主題

主体的・対話的で深い学びを実現する授業の創造  
～3つの視点「話す」「書く」「発表する」を中心に据えた  
洞北中スタンダードの確立～

#### 若松・八幡東・戸畑ブロック研究主題

「コミュニケーションを図る資質・能力」を育成する外国語科学習指導の研究  
—4技能を統合した言語活動の充実を目指して—

#### ＜スクールプランの授業改善にかかる達成目標（本年度のゴール）＞

授業では、先生から示される課題や、学級の小グループの中で、自分たちでたてた課題に対して、自ら考え、主体的に取り組めるようにする。

#### ＜達成目標に向けた本時の手だて（留意点）＞

- 一時間の授業の中で必ず「書く」「話し合う」「発表する」活動を取り入れる。
- 思考を可視化し、生徒が自分の考えを伝えやすくできるようにする。
- 他の生徒の考えを受容する雰囲気をつくる。

1. 単元名 「留学生に日本の偉人について紹介しよう」  
Unit6 Striving for a Better World (*NEW HORIZON English course 3*)

#### 2. 指導観

- 本学級は、語彙の量に個人差はあるものの、間違いを恐れず積極的に発言・発表しようと意欲的に取り組む生徒が多い。また、それを周りが受け入れる温かい雰囲気がある。想像力も豊かで、英語の表現活動では、既知の言語材料を用いて自分が言いたいことを何とかして英語で伝えようとする心構えをもっている生徒が多く見られる。英語を「書く」「話す」活動の応用的な場面では、ほとんどの生徒が、モデルがあればそれを参考にして表現することができる。自分の興味のある芸能人やキャラクター、夢などをテーマにして表現する場面では特にその傾向が見られる。その一方、絵を見て状況を説明する場面など、ある程度状況が定まった場面を説明するとなると、難しさを感じてしまう生徒が多いと感じる。自分の意見を英語で表現することは勿論習得すべき大切な技能ではあるが、その幅が自分の興味のある分野に限定されてしまわないよう、本単元を通して様々な表現活動に触れて幅広い表現力を身に付けさせていきたい。
- 本単元では接触節、関係代名詞を言語材料とし、スキットを作る活動を通して、人やものについて詳しく説明をすることができるようにすることをねらいとしている。ノーベル平和賞を受賞したアウンサンスーチーの活動を教科書本文から読み取るとともに、その他の偉大な人物を取り上げる。そして、世界の偉人を知るとともに、世界の中の日本人であるという自覚をもち、日本の偉人を英語で紹介できるようにすることを目標としたい。また、本校では12月にひびきの学研都市の留学生との国際交流授業を計画しており、その際に留学生に日本の偉人を紹介し、各国の人々に日本の歴史を伝えられるような活動をしたいと考える。
- 指導にあたっては、日本の偉人を海外から来た留学生に紹介するという課題を単元での最終の活動として設定し、その際、意見や理由を英文で表現させ、まとまりのある英文を作成させる。それを基に偉人紹介ポスターを作り、各国から来た留学生に日本の歴史を紹介する活動を行いたい。そ

ここに至るまでに、接触節をはじめとする関係代名詞の用法に習熟させる。視覚的な教具や身近な題材を使用するなど、生徒が学習に参加しやすい教材作りを心がけたい。言語活動においては、4技能を統合的に高められるよう、「読む」「書く」「話す（[発表][やり取り]）」「聞く」活動をバランスよく取り入れ、教師からの一方的な講義になってしまわないように教師・生徒間、生徒・生徒間といった双方向的な活動を取り入れる。また新出文法を定着させるために、口頭練習だけでなくワークシートを用いることで、様々な場面での関係代名詞の用法を理解させ、習得し運用できるようにしたい。

### 3. 本単元における主体的・対話的で深い学び、学習評価の工夫

#### ○ 主体的・対話的で深い学びの工夫について

本単元では、対話的な学びを実現するために、ペア活動やグループ活動を多く取り入れる。またその中で単なる新出表現の練習といった単一的な活動に絞られないよう、「まなボード」やワークシートを用いてまとまりのある英文を作る活動を行うようにする。また、留学生に日本の偉人を紹介するという課題（タスク）を設定しており、人物の選択は生徒自身が実際に表現し伝えたい人物とするよう留意する。そうすることで、本当の意味で生徒が「周りの人に紹介したい人物」を選ぶことができ、より主体的な学びにつながると考える。実際の活動では、スキットを作成する。その後、一度書いた原稿をペア・グループで読み合い、お互いの良い表現などを参考にしながら練り上げ、深い学びへとつなげていきたい。

#### ○ 学習評価の工夫について

学習評価については、新出表現を活動の中で運用できているか、また既出の言語材料を用いながら、自分の意見を表現することができているかを見取る。具体的には、「書く」活動ではワークシートを活用し、その中でまとまりのある英文が書けているか記述分析より評価する。「話す」活動では、間違いを恐れず積極的に発表できているかどうか、ペアやグループでの活動では、協力して活動を行うことができているかを評価の観点とする。

### 4. 特別な教育的支援を要する児童・生徒に対する指導上の工夫・手だて

困難さ	手だて	対象児童	番号
プリントを整理することが困難	配付するワークシートや資料に番号をつけ、学びの足跡が分かるようにする。	A児 B児	①
学んだ言語材料を生かして文を作ることが困難	ワークシートや黒板にモデル文やヒント（絵や語句）を提示し、英文を書くことが苦手な生徒でも書きやすい環境を作る。	C児 D児	②
一人で学習することに集中力がもたない生徒	机間指導を行い、要所要所サポートする。	E児 F児	③

### 5. 目標

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 積極的に友達と英語を使ったコミュニケーションを図ろうとする。</li> <li>○ 人物を紹介した英文に興味・関心をもち、その人物像、業績や生涯について詳しく知ろうとする。</li> <li>○ テーマについてのポスターを積極的に作成しようとする。</li> </ul>
外国語表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 接触節や関係代名詞を含んだ表現を用いて、英語で書いたり話したりすることができる。</li> <li>○ テーマに沿ったポスターを作る際に、自分の考えなどを加えた文を用いて、英語で表すことができる。</li> </ul>
外国語理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 接触節や関係代名詞を含んだ英文を聞いたり読んだりして、その意</li> </ul>

	味を理解することができる。 ○ アウンサンスーチーの活動や業績についての情報を聞いたり読んだりして、その概要を理解することができる。
言語や文化についての知識・理解	○ 接触節や関係代名詞を含んだ英文の形・意味・用法を理解している。 ○ 友達の作成したポスターを読み、あるテーマに応じた詳しい内容を英語で理解することができる。

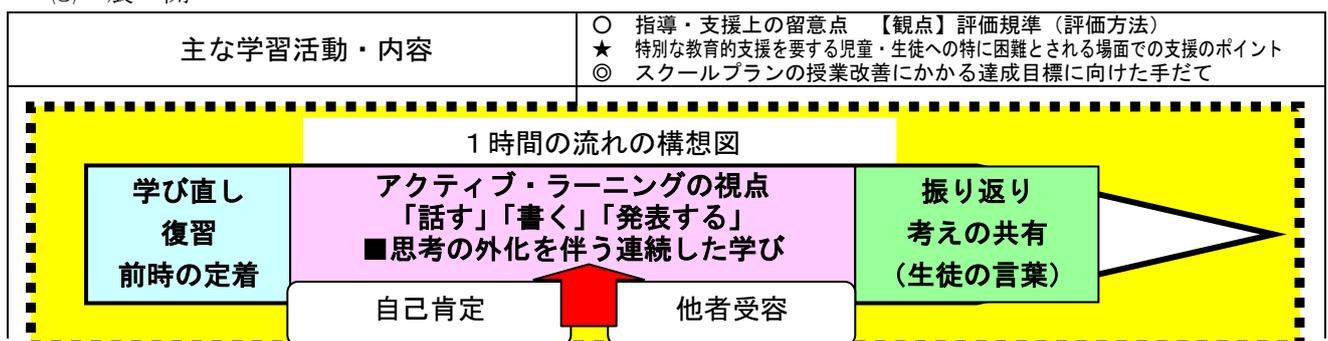
## 6. 指導計画と評価計画（総時数 12 時間）

主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点 ★ 特別な教育的支援を要する 児童・生徒への特に困難とされる 場面での支援	評価規準及び評価方法
◆ 学習の見通しをもつ。  1. 接触節の使い方を学び、世界の偉人について知る。 ② (1) 接触節を使い、身近なものを説明する活動を行う。 ①  (2) 教科書に出てくる人物を用いて歴史上の偉人について紹介する。 ①  2. 関係代名詞の用法を学ぶ。 ③ (1) 関係代名詞 who の使い方を学び、運用する練習を行う。 ① (2) 関係代名詞の主格の that (which) の使い方を学び、ものに説明を加えた文を作る活動を行う。 ① (3) 関係代名詞の目的格の that (who) の使い方を学び、人物を紹介する文を考える活動を行う。 ①  3. アウンサンスーチーの生涯について学ぶ。 ③ (1) Dialog を読み、関係代名詞 who を含む文を確認しつつ内容理解を行う。 ①	○ 単元の学習の見通しをもたせるために、留学生に実際に紹介することを提示する。 ○ 接触節を使って、身近なものに説明を加えた文を作ることができるようにする。 ★ 手だて①②③  ○ 歴史上の偉人について紹介することで、本単元のテーマに気付かせる。  ○ 代名詞 who を使って、人物に説明を加えることができるようにする。 ★ 手だて①②③  ○ 関係代名詞を使った様々な例文に触れ、文の中での使われ方を理解させる。 ★ 手だて①②③  ○ 関係代名詞を使ってものや人に説明を加える文を作り、お気に入りの人物や物について紹介させる。 ★手だて①②③  ○ 対話文をペアで音読練習する際、まとまりを大切にしながら相手に言っている内容が伝わるように文を読むように指導する。	【関】間違いを恐れずに、お題の絵カードを見て、その状況を説明する文を作ろうとしている。（行動観察） 【表】絵に合った文を作ることができる。（記述分析） 【関】世界の偉人に興味・関心をもち、進んでその生涯・業績を知ろうとしている。（発言分析，行動分析） 【表】人物に詳しい説明を加えた文を書くことができ、人に紹介することができる。（発言分析，記述分析）  【表】関係代名詞を運用して、ものに詳しい説明を加えた文を作ることができる。（記述分析）  【知】関係代名詞の目的格を含む英文の形・意味・用法を理解している。（記述分析）  【理】対話文の内容を理解することができる。（発言分析）

<p>(2) アウンサンスーチーの記事を読み、彼女の政治家としての半生を読み取る。①</p> <p>(3) アウンサンスーチーの記事を読み、彼女のプライベートな面での半生を読み取り、彼女の生き方について考える。①</p>	<p>○ 教科書のQ&amp;Aに答えながら英文の一言一句にこだわらず、その概要を把握できるように指導する。</p> <p>○ Read and think 1と2から分かるアウンサンスーチーの生涯について時系列でまとめさせる。</p>	<p>【理】アウンサンスーチーの生涯や業績を理解することができる。 (発言分析)</p> <p>【理】アウンサンスーチーの生涯や業績を理解することができる。 (発言分析)</p>
<p>4. 日本の偉人や有名なものについて紹介するポスターを作る活動を行う。④</p> <p>(1) 教師の作ったポスターの例を見て、どのテーマにするかを考える。ポスターの書き方モデルを参考にして構想を練る。①</p> <p>(2) パソコン室を活用し、情報や資料を集め、ポスター作りの下書きを作成する。①</p> <p>(3) ポスターを完成させ、次の発表練習を行う。①</p> <p>(4) 各グループでプレゼンテーションを行い、その後教師からのフィードバックを受ける。①</p>	<p>○ 与えられた選択肢から選ぶのではなく、自分で紹介したい題材を自分で選ぶよう促す。</p> <p>○ モデルを見て、自分のポスターに活用できそうな部分は取り入れさせる。</p> <p>○ 自分で調べたい人物の情報を収集させる。</p> <p>○ ポスターを読むのではなく、人に伝えることを目標に練習を行わせる。</p> <p>○ 友達の発表を聞き、観点別に評価させる。</p>	<p>【知】英語や視覚情報を使った効果的なポスターの作り方を理解している。 (記述分析)</p> <p>【技】必要な資料を収集し、必要な情報を取り出しながら、あるテーマについて、まとめている。 (行動観察, 記録分析)</p> <p>【思】友達のプレゼンテーションを聞いて、内容を理解し、評価することができる。 (発言分析, 作品分析)</p>

7. 本時の学習 平成30年11月29日(木) 第5校時 3年4組教室

- (1) 主眼 人やものに説明を加える表現を使ったスキットを作成する活動を通して、より具体的に説明することができるようにする。
- (2) 準備 教師 教科書, ワークシート, TV, パソコン, ピクチャーカード, まなボード  
生徒 教科書, ノート, ファイル, ワークシート
- (3) 展開



1 あいさつをする。

2 ペラペラ English を行う。

3 新出文型を学習する。

(1) ALTとJTEとの対話を聞き取り、自分のお気に入りの人物や物について紹介している文章を聞き取る。

(2) デモンストレーションの中でALTとJTEとの会話の内容を聞き取る。



先生たちはお気に入りのものを紹介しているけど、いつもより文が長い気がするなあ。どこが違うのかな。



picture や car のあとに続く言葉が現在分詞や過去分詞ではないよね。



さて、先生たちが紹介したものをもう一度英語で紹介してみるよ。どんな表現を使っているかな。



今度は、みんなの番です。今日は身近なものを紹介する文を作ってみましょう！

めあて 身近な人やものを紹介するスキットを作ってみよう。

4 カードを使って新出文型を用いた活動を行う。

(1) 絵カードと状況カードを照らし合わせ、適切な文をみんなで考える活動を行う。

○ 英語学習の雰囲気づくりをする。

○ 生徒同士で挨拶をすることで、自然とお互いに英語でコミュニケーションを図る場を設定する。

○ 既習事項を繰り返し音読し、文法事項の定着を図る。

○ 視覚的な教材を使用することで、生徒が単元に対する関心を高められるようにする。

(デモンストレーションの例)

写真を裏返しに見せて

Ericka : This is the picture I love the most!

Saki : Really? Is this a person?

E : Yes, of course! You can watch a lot of TV dramas he is in.

S : I got it! Is this Ikuta Toma? I know you like him!

E : Yes. He is my boyfriend. (ha ha ha) Then, how about you?

S: Me? Look at this! This is the car I like the most!

E: Well... Is this a toy?

S: No! I always use it when I use the computer.

E: Hmm.. Is this a mouse?

S: Yes! It has two buttons we can push.

E: Excellent!

This is the picture I love the most.

You can watch a lot of TV dramas he is in.

This is the car I like the most.

It has two buttons we can push.

○ 分詞による後置修飾と異なり、I have the computer . という文の目的語である the computer を I have の前に動かして、直感的に理解できるよさに気付かせる。

(絵カードの例) person / singer / pen / picture / book / bag / dog / hamburger / teacher など色々なジャンルのものを準備する

(状況カードの例) I bought yesterday I like the most my brother ate Tom always reads Aki wants she doesn't like I've been loved They made

など、答えが一つにしぼられないように、様々な状況を設定する。

(2) パターン・プラクティスを行う。



この形を使って説明を後ろに加えるときには、絵カードの部分が目的語になりますね。

5 絵を使ってスキットをペアで作る活動を行う。



僕たちのお題は「本」だね。

「昨日買った本だよ」と言いたいときは、  
**This is the book I bought yesterday.**  
でいいのかな。



私たちはアニメについて説明するんだね。ドラえもんか。世界中の人が好きだよ。The robot everyone in the world loves is Doraemon. という表現にしよう。それに続けて話を広げたらいいよね。例えば、**Do you want a robot like Draemon?** はどうかな。

(2) となりのペア同士で発表する。

(3) 参加者のJTEに自分たちのスキットを発表し、質問を受ける

(4) いくつかのペアを指示し、スキットを発表する。



こんな文を書いたよ！というのを発表してくれるペアはありますか？

○ パワーポイントを使って口頭練習を行い、接触節に慣れさせる。

○ 接触節の文法と使用方法を確認させる。

★ 手だて②

状況カードは黒板に貼ったままにしておき、必要であれば活用できるようにしておく。

○ 絵カードの部分が目的語になることを確認させる。

○ 全部で6種類の絵カードを準備し、各ペアに1種類の絵カードとまなボードを渡す。その絵を使ったスキットをペアで考える。このとき、

【スキット作成の際の条件】

・必ず接触節を使った文(今日習った新出文型)を少なくとも1回は使う。

・上記に続く対話を6文以上続ける。

○ 「まなボード」は、メモ程度でよいことを伝える。

○ 発表を行う際は「まなボード」を見ず、表現できるように心掛けさせる。

【表】条件を満たす、絵に合った文を書くことができる。(記述分析)

【関】間違いを恐れず、お題の絵カードを見て、その状況を説明する文を作ろうとしている。(行動観察)

★ 手だて①

配付したワークシートには、番号をふっておき、整理の苦手な生徒でも整理しやすいようにする。

★ 手だて②

ワークシートにヒントを提示しておき、英文を作ることが苦手な生徒でも取り組みやすいように支援する。

★ 手だて③

机間指導を行い、ヒントを与えながら支援を行う。

○ 他のペアのスキットを見て、よいところは自分たちのスキットに取り入れるようにする。

○ 会話を続ける際には、リアクションが大切であることをおさえる。

○ スキットの内容に合った質問をするように参加者に伝えるようにする。スキット後は **Thank you. Please give us a question.** と英語で質問させる。



はい！

A: This is a book I bought yesterday.

B: Sounds good. How was it?

A: It was very interesting.

B: Really? I want to read it!

A: Then, I will lend you!

B: Thank you so much!

6 「まなボード」を参考にして、ワークシートに考えた対話をまとめる。	○ できたところまでをワークシートに書き入れ, 学習のあしあとを残す。
7 学習のまとめと振り返りを行う。	○ 学習の振り返りを行う。

**まとめ** 接触節を使うことで説明を加えることができる。

目的語×

The watch my father bought in America is expensive. 父がアメリカで買った腕時計は高価だ。

- 本時の活動を振り返る時には, 視点を与えるようにする。
- <視点1>「話す」「書く」「発表する」ができたか。
- <視点2>接触節が理解でき, まとまりのあるスキットが作れたか。

**振り返り**

間違いを怖がらないで、友達と会話を続けることができました。ホワイトボードを見ないように心がけましたが、難しかったです。でも、見に来られた英語の先生からの質問にはすぐに答えることができました。言葉を後ろから説明する言い方は文が長くなると感じたけど、思ったより使うことができました。